

令和4年度京丹後市議会議員研修会報告書

日 程	令和5年2月16日(木)
開催場所 及び 研修会名	開催場所：アグリセンター大宮 多目的ホール 研修会名：持続可能な地域社会を目指して～診断と合意形成の進め方
参加議員	上羽議長、肝付副議長、伊田議員、今西議員、上野議員、尾関議員 川口議員、小杉議員、杉島議員、高橋議員、田畑議員、仲井議員 西村議員、廣瀬議員、眞下隆史議員、眞下弘明議員、松田議員 水嶋議員、南議員、山本議員
概 要	
<p><研修の目的> 京都府北部5市2町においても人口の減少が著しく大きな課題となっている。持続可能な地域社会とするために、人口増加計画の手法や先進事例を学ぶことを目的とする。</p>	
<p><プログラム></p> <p>1 開会</p> <p>2 開会あいさつ</p> <p>3 研修会 演題 持続可能な地域社会を目指して～診断と合意形成の進め方 講師 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏</p> <p>4 閉会あいさつ</p>	
<p><内容></p> <p>東京一極集中の限界を迎え、田園回帰の機運が高まっているが、それぞれの地方において人口の社会増を実現するためには、まずは地域の現状把握、現状分析、未来予測を「見える化」し、診断が必要である。地方の持続可能な未来の形・循環型社会となるには30年かかると予想され、30年計画作成のための現状把握から問題解決へ、分野を横断した循環型社会の実現のための新しい地域運営と先進事例について学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢層別人口の増減、将来の人口予測を自治体全体から地区別に診断を行うと地区別で大きな違いがあることから、それぞれの地区の課題と成果を踏まえた定住戦略を行う。 ・ 地方都市では中心地、まちなぎわいの場をずらし続ける傾向があり、昔の商店街は廃れ、域外資本の大型店などで買物をする結果、地域のお金が域外へ流出している。毎年、外から買う量を100から99に減らし、地域内で原材料から作ることで、地域流出の1%を取り戻せば、所得の1%取り戻しが見えてくる。 ・ 2050年までに循環型社会へ転換するには、地域の力を結集するため横断型の新しい地域運営が必要であり、住民、市の職員、議員が診断データを基に同じ方向を目指す。 	

<議員の所感>

伊田 悦子 議員

- ・ 持続可能な地域社会に向けていくつかのキーワードがあり、とても興味深く参考になった研修会でした。
- ・ 診断が第一歩であると言われていましたが、正しく診断するためにも、まず市民の要求がどこにあるのかつかむ必要があるのだと思います。
- ・ 診断しても、次のステップとして誰がやるのかが問題になってくると思いますが、そのこのところで簡単に前には進んでいかない苦労がどこでもあると思います。
- ・ 事業の主体が地元であれば、コントロールできることから、これからは地元主体であるべきということでしたが、その通りだと思いました。

今西 克己 議員

持続可能な地域社会を目指すには、その底辺いわゆる地域コミュニティの形成なくしてあり得ない。

その最たるものが住民のコミュニティである。何事をするにも地域力がなくては何もできない。その地域力を維持推進するにはまず、地域全体のつなぎ役、実行部隊（地域のリーダー）が必要である。そのためには、みんなが集まり、話す場やその機会、地域全体を多角形で見える視野、地域全体をつなぐ組織や人材、拠点も必要となる。

さらに、移住者や若者を支えるベテランの住民が介在し、女性が活躍できるポジションを作ること、閉鎖的でなく外との交流の窓口を持つことが大事である。

未来につなぐ長い目で見た域内循環型社会への転換が大事である。

全国各地の取組を伺い大変参考になりました。今後の地域社会のより良い形成に向けて取り組んで行きます。

上野 修身 議員

我が国の、とりわけ地方における少子高齢化・人口減少は日ごとに加速している。持続可能な地域社会を目指すには、国において一極集中の是正、田園回帰を求めるとともに、地域においては、地域コミュニティの復元、循環型社会に進化させることなど、住民・職員・議員が同じ方向を目指すことが定住の実現につながる、と。容易なことではないが参考になった。

上羽 和幸 議員（議長）

人口減少をする自治体の経過など人口状況の分析（診断）、自治体内の地域別人口分析を詳細に行い、人口が減少している地域に対して戦略的な対策を検討していくこと。また、地産地消、則ち経済の循環を推進することで、域外流出を1%、そして地元の所得を取り戻していくことを推奨し、その効果や意義を述べられており興味深い内容であった。

特に分析については、今までにない気付きや、課題が浮き彫りになることもありその必要性を実感した。

一方で、講演後の地元議員の質疑でもあったが、人口減少をしている地域住民で目標や対策を検討し実行する。これは現実的に誰がやるのか、出来るのか。多くの地域や自治会はそうしたコミュニティ力も人もいないために人口減少しているのである。この質問に講師が答えられないことは残念であった。少し机上の理論であるのかもしれない。

最後の「定住実現している地域はどこが違う」の紹介は、地域コミュニテ

イの内容も含めて、何が主張したいのか分かり辛かった。

何れにしても、人口減少という共通の課題に対して切り込んだ講演であり有意義であった。

尾関 善之 議員

今回の研修は地方の課題であるまちづくりに大変有意義な研修でありました。

- ・ 街の現状分析から見えてくる様々な課題
 - ①年齢構成 ②年齢階層別人口増減（流出入） ③30代女性の構成
 - ④小中学生の人口予測 ⑤高齢化率予測 等々から見えてくる課題
- ・ 中心部で目立つシャッター街から見えてくる様々な課題
- ・ 経済(お金)の流出から見えてくる地域経済等の疲弊状況
- ・ 課題解決への取り組み、LM3（地域内乗数3）理論に基づいた消費、流通、生産の3段階を通じた域内経済好循環!!
- ・ 循環型社会のお金の流れ
- ・ エネルギー、一次産業、二次産業、三次産業、介護、医療、年金等、未来につなぐ域内循環が確実に地域経済を向上させる。
- ・ 見えてきた元気なコミュニティを作る10か条
- ・ 住民コミュニティ、産業事業、行政、こうした状況から、持続可能なまちづくりが、人口流出を食い止め、定住促進が実現可能となる地域社会等々。

ご教示ありがとうございました。

舞鶴市議会もこうしたまちづくりの研修も必要と考えます。

川口 孝文 議員

持続可能な地域社会に向けて、地域の課題を診断し地域での合意形成を進める手法に係る講義を傾聴し、地方創生に向けた人口減少対応策について、他市町の取組や実際に行っている手法を学ぶことができ極めて有意義であった。

特に、課題を「抽出・検討・対策の構築」をするために、人口分析⇒地区別分析⇒戦略策定のプロセス、すなわち「診断」＝「分析」がいかに重要かを再認識することができた。当市議会が取り組んでいる「わがまちトーク」でのアプローチの一つに取り入れてみるべきであると思料する。

肝付 隆治 副議長

持続可能な地域社会に向けて、移住定住の実現と循環型社会への転換の重要性と手法について研修した。舞鶴市の将来の人口推計による未来予測は、悲観的で課題が多く、現状の取組を継続していくだけでは、これからの環境変化に対応できず、様々な将来リスクを避けることはできないのではないかと思える。市民がまちづくりへ参画し、行政との協働へと主体的に動き出すためには、予想される悲観的な未来からこういうまちであってほしいという希望の未来を描き、その実現に向けて、地域のつながりをつくり、多様な主体による地域づくりに取り組んでいくことが重要であると考えてきた。今回紹介された富良野市、東かがわ市、佐賀市の例など地元の未来つくるのは、専門家ではなく、住民主役で取り組んでいることに強い共感を得た。舞鶴市の将来を担う若者たちが、舞鶴市の課題や魅力を考え、目指したい将来像とその実現に向けた施策について、「舞鶴市未来創造ワークショップ」を開催したらどうか。

小杉 悦子 議員

藤山先生の話に興味深く聞きました。私が住んでいる加佐地域は、市街地よりも少子高齢化が進行し、コロナの影響で地域のつながりが希薄になり、地域の祭りや運動会などこれまでなんとか行ってきた行事も、再度起こしていくことの難しさがあると思います。

まずは地域の現状をつかみ、診断が必要だと痛感しました。加佐地域活性化センターもつくられたが、まだ具体的な動きはなかなか見えてきません。診断と分析で課題を共有し、旧小学校単位で目指すべきものをもみんなでも共有できるようにすれば、地域づくりが前に進むのではないかと思います。

田園回帰で、移住者も増えてきている中、新しい方の力も借りての地域づくりは必要です。ただ地域のリーダーを持続的に確保するための努力も随分いるだろうと思います。地域の役員任せでは、なんとか任期が終われば・・・との発想もあり、前になかなか進まないこともあります。課題の全住民で共通する仕事と、そのリーダー、行政の関わりのところも、もう少し聞きたかったです。

杉島 久敏 議員

人口減少問題については、喫緊に取り組まなければならない課題であるとの認識を持っている。当然考えるのは「人口の増加」に向けた取組と考えられるところである。しかしながら今回の研修会の内容においては、人口の増加を考える以前に、「どうすれば持続可能な安定した地域社会を築いていけるのか」に主眼を向ける必要があるとのことであったように思われる。そして、「プランの前に診断」ということである。計画を立てる前に現状をしっかりと把握するための診断と費用が必要ということだ。そして何よりも、地域で事務局機能を担う人材を確保することが必要となる。まずは、しっかりとした先進地の視察を行うことから始めてはどうだろうか。

「このままだったらダメになる」ではなく「どうすればいいのか」をしっかりと診断した上で地方創生の価値観の転換を進めることが求められることになるのではないのでしょうか。

高橋 秀策 議員

- ・ 循環型社会の大切さ、地元産品や地元企業を大切にしていけることが地元経済を豊かにすることに改めて気づかされました。

田畑 篤子 議員

「日本はどこで間違えたのか」脱一極集中戦略を地元の創り直しから実現するか。地元から日本をいかに再構築するか！！の著者でありインパクトのある研修であった。10年後に「あの時考えた未来が本当になった」と言わせたい。や、PDCAサイクルではなく現場の「診断」から始まる「目標設定」と「地域同士の学びあい」であり、現場から始まり現場に還る進化サイクルが行政の本質であると述べられた。きめ細かい現状の「見える化」と分析、分野を横断した連結シミュレーターによる一貫型解決システムであることが必要である。エビデンスに基づく地域政策の形成への移行である。持続可能な安定した地域社会に向けて重層的に地域づくりをしていくことが重要である。議員として地域社会に生かせる提案をするのが仕事であり、いかに現実をしっかりと把握し分析、提案できるかが求められているかということ

ある。市民に最も近い存在であり、また行政提案できる強みを最大限に生かしてこのまちの施策に貢献すべきであることを学びとした。視野を広く持ち未来に向けてこのまちの発展にできることはまだあると実感した。

仲井 玲子 議員

地方のお金が都会資本にどんどん吸いとられている現状に改めて愕然とした。域外資本店などでの買物は、安くて便利であるが、結局は域内のお金の流出でしかない。また、相続などにより人口の流出と共に地方の資産が東京へと流出していることに気がついた。

これは藤山講師がデータを基に地域の診断をされているからこそその説得力のある気づきで、まずはデータを基にした地域の課題を共有することが大切だと感じた。

私が住んでいる地域においても地域のトップの組織は区長連合会であるが、毎年メンバーが変わるため例年の行事をこなすことのみでコロナ禍もあり地域行事もどんどん先細り、地域のつながりが薄れていく一方である。戦略的に持続可能な社会、地域とするために区長連合会任せにせず、新たな地域コミュニティの構築が必要であると再認識した。

西村 正之 議員

持続可能な地域社会を目指して～診断と合意形成の進め方について公演をいただきました。「地元」からいかに日本を再構築するかという観点からお話を伺いました。

私たちが「大規模集中グローバル」という巨大な「ボタンのかけ違い」を正さない限り正しい持続可能な社会に復帰できないこととお習いいたし、そのことの認識を新たにいたしました。有益な公演でありましたことに感謝申し上げます。

廣瀬 昇 議員

本市のような地方都市においては人口の流出や地域経済の衰退が問題となっている。

今回の研修では地域力を取り戻す為には地域内で経済を回す事、地域の問題を市民との共通課題とし地域ぐるみで解決を図る事が必要だと感じた。

まだまだ地域は終わってはいない、循環型社会へ変換し活性化させるためのヒントをいただきました。

眞下 隆史 議員

○ 京丹後市で藤山先生の講演を聞くのは2回目であり、内容についても近かったため再度見識を高めることになった。

○ 議会の内容という事よりは地方自治体全体の課題解決に向け、市民・行政・議会が目指す方向性についてであり、以前から藤山先生の内容は共感するところであり、難しさも理解しながら取り組む必要性を強く感じた。その中で、行政が行うPDCAサイクルとして「プラン」から始めるのではなく、調査（特に社会動態）から入るのは当然であると感じるところであり、議会として指摘・追求すべき点であることが理解できた。

○ 大浦地区では、住民自らが地域課題に対し協議し行動する新たな組織ができているが、藤山先生の講演を聞き、大浦地区がやっていることの正当性を強く感じ勇気づけられるとともに、さらなる高度性を求めアドバイスができる講演でした。

- こうした講演を基に、議員研修で学んだことを行政・市民の立場として聴くだけでなく、議員として・議会としてどう反映していくかを考えることが、議員全員の使命と強く感じた研修でした。

眞下 弘明 議員

研修会の内容については、舞鶴市の人口も緩やかにではあるが減少し一極集中が続いている日本でいかに舞鶴市に人口増加をもたらし、舞鶴市を持続していくか、そして舞鶴市内でのお金の流れを生み出す必要性を痛感した。

高校卒業し進学をして舞鶴を出て戻って来ない人達のためにも、舞鶴市にI・Jターンしてもらえる舞鶴にしないといけない。

産業建設委員会でも真剣に考えていく必要がある。

官民一体で取り組まなければ持続も出来ない。

今年のお正月に帰省して来ていた学生18人の意見を聞いたが、交通の便も悪い、就職先がない、遊ぶ場所がない。16年前に自分が京都市から舞鶴市に帰ってきた時と印象が変わっていない。コロナ禍もあり悪化しているかもしれないという危機感を持った。西地区の明倫地区出身で小さな頃は西舞鶴の中心でした。今ではシャッター、飲食店街。アーケードの強みも生かしもう一度、明倫地区に人を戻せるように衆知を集め中心に人を戻すことが西舞鶴のためにやらなくてははいけない事だと痛感し責務だと感じました。

松田 弘幸 議員

人口減少、少子高齢化対策で感じたこと。

- 1 舞鶴市を分析して欲しい。
- 2 循環型の社会の構築の大切さを感じた。(エネルギー、一次産業、経済を市内で回す。)
- 3 30代女性を増やす。活躍の場所づくり。30代女性に選ばれるまちづくりが大切と感じた。

水嶋 一明 議員

藤山 浩 先生の1回目の研修で「田園回帰の時代」について聴講させていただきましたが、今回はさらに、各市の分析、戦略の重要性や今後の社会がどのように進化していくのか等30年先を見越した域内循環の重要性など、地域づくりに必要なノウハウ等大変参考になりました。

これからも、教えていただいたことを参考にし、議員活動に精進して取り組んでいきたいと思っております。

南 正弘 議員

「一極集中」の限界ということで、6項目について地域の一つの進め方をレクチャーいただいた。少子高齢化が全国的に進んでいる現代では人口を増やすことは非常に難しいが、現状維持ができれば良いのではないかという考えは参考になった。

大事なことは、25～30歳代の女性にいかに住んでいただくか、そして消費・流通・生産の3段階を通じた域内経済循環の把握をして、地元により多くの所得が入るように考えないと、売上げは多くても地元のためになっていないという空洞化(錯覚)が起きている事を、我が舞鶴も再認識すべきではないかと思った。

今回お招きいただいた京丹後市でも、現在の人口50,860人、高齢化率38.2%(75歳以上21.5%)であり、この10年で次世代定住と老後も安心な

地域づくりをされると宣言されている。そのためには、まず専門家による地域の分析が不可欠であると考えるとともに我が舞鶴でも分析していただいても良いのではと思った。

最後に、現在よく使われているマネジメントサイクルのPDCAについて、藤山講師より「プランが最初に来る事は間違いであり、まずは現状の把握と分析からすべきである」との考えはその通りだと強く思った。

山本 治兵衛 議員

4年前も同氏から研修会にて講演を拝聴した。その時にも診断と分析の必要性を説かれていた。研修を受講した際には舞鶴市の人口減少に歯止めをかけようと思っていたにも関わらず、コロナ禍に突入したこともあって関心が他の懸念事にシフトしていった。結果、今回の指摘にもあるとおり、舞鶴市は重大な手遅れが生じているように感じた。これからの総務消防委員会の重要事項については当面の間、人口減少問題に特化しても良いとさえ思う。講演の項目の通り、調査を繰り返して責任ある結論を導き出していかななくてはならないと感じた。

講演の中にあつた、持続可能性シミュレーターが興味深いところではあるが、各省庁からの公表データを集計して、まずは検証から始めればよいと思う。議員個人では効果が薄くなると思われるので議会の予算、もしくは政務活動費を駆使して研究するべきと感じた。

